

記憶より記録、さえずりナビを使った 野鳥観察のデータベース化と分析

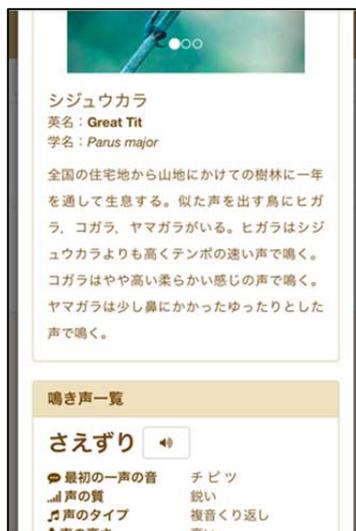
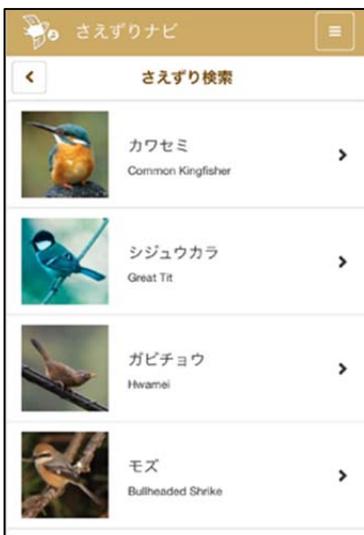
NPO 法人バードリサーチ

バードウォッチングの記録が手帳に溜まってしまい、記録の検索や整理に困っている人は多いでしょう。バードリサーチでは 10 年ほど前から Web 版の野鳥記録データベースを無償で提供し、これまでに約 13 万件の記録が蓄積されています。こうしたデータベースはバードウォッチャーにとって便利なだけでなく、あらかじめ利用規約にバードリサーチで野鳥分析にもデータを活用させてもらうことを含めていることで、全国規模の野鳥の分析にも活用しています。このたび、この野鳥データベースを iPhone アプリで提供していた「さえずりナビ」と統合し、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれからでも利用できるシステムに改修しました。これをバードウォッチャーが参加して作る全国の野鳥情報のインフラとして普及させ、蓄積される野鳥のビッグデータを使った分布や個体数変化の解析を行っていきたくと考えています。

現在のさえずりナビ (2017 年 12 月版)



自分の調査地は黄色いアイコン、自分以外は青いアイコンで表示される。希少種と登録者が非公開にした種は一般公開されない(左図)。ズームアウトするとポイントが統合表示される(右図)。



野鳥の記録だけでなく、地図上の地点を指定すると、その地点で観察できる可能性がある種の一覧を表示する機能もある(左図)。一覧から種を選択すると図鑑を見ることができ、鳴き声を聞くこともできる(右図)。

今後のバージョンアップの計画

バードウォッチングをする人が多い場所（地域で野鳥が多い場所、探鳥会開催地、自然観察施設など）の情報を簡単に集約して閲覧できるようにするため、「共同探鳥地」という機能を追加することを予定しています。「共同探鳥地」とは地図上の一定区域を囲んだ概念で、その区域内に登録された野鳥記録は個別のポイントの記録としてだけではなく、集計表などでも閲覧できるようになるため、その場所に現在どんな野鳥が来ているかや、季節ごとに観察できる種が分かりやすくなり、バードウォッチングガイドとしての利便性が高まります。

さらに自然観察施設や環境保全をしたい場所に「共同探鳥地」を設定しておけば、その場所の野鳥記録を能率よく収集できるようになります。バードリサーチでは全国の自然観察施設や野鳥観察団体と協力して日本中に数千か所の「共同探鳥地」を設定し、バードウォッチングをすることで地域の保全に役立つデータが蓄積される仕組みを作っていきたいと考えています。



共同探鳥地のイメージ図

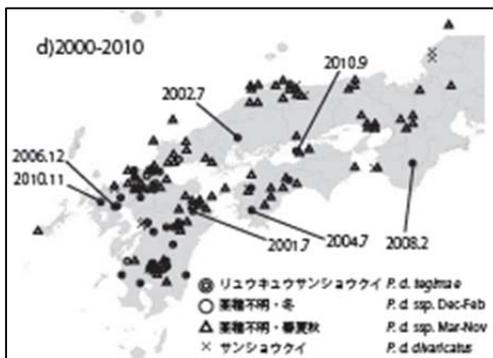
探鳥地名XXXX 記録種リスト		
< 戻る		
ダイサギ	5	2016/08/01
コサギ	1	2016/08/02
ダイシャクシギ	4	2016/08/03
キアシシギ	10	2016/08/04
ムクドリ	5	2016/08/05
ハシブトガラス	3	2016/08/06

共同探鳥地に登録された全利用者の記録から、最近見られた種をリストアップ。

探鳥地名XXXX 年間出現表					
< 戻る	1月	2月	3月	4月	5月
カイツブリ	●	●	●	●	●
カワウ	●	●	●	●	●
チュウサギ					●
マガモ	●	●	●		
カルガモ	●	●	●	●	●
トウネン				●	●
ハマシギ				●	●
ユリカモメ	●	●	●	●	●
セグロカモメ	●	●	●		

共同探鳥地に登録された全利用者の記録から、年間出現種の表を作る。

データの活用



野鳥データベースの記録は、これまでも鳥類分布の研究で利用されています。左図はバードリサーチの野鳥記録データベースの記録も利用して執筆された論文「西日本におけるリュウキュウサンショウクイの分布拡大 (三上・植田 2011)」の図です。このほか、渡り鳥の初認日を調べるバードリサーチの「季節前線ウォッチ」でもデータが利用されています。

今後は、季節前線ウォッチでさらに全国を網羅した情報を集めることや、繁殖分布調査などの調査でもデータを活用していきたいと考えています。